

## 老健で富山最大のクラスター、大学教授「誰も入らないなら、入るしかない」-山城清二・富山大病院総合診療部教授に聞く ◆Vol.1

「59人感染、15人の入所者死亡」、GW返上で対応

インタビュー 2020年6月16日(火)配信 藤重歩 (m3.com契約ライター)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で富山県最大のクラスターが発生した富山市の介護老人保健施設「富山リハビリテーションホーム」。入所者、職員を合わせて59人が感染し、15人の入所者が亡くなった。4月17日に感染者が初確認されてから収束するまでの約1カ月間、崩壊寸前の施設で何が起こっていたのか。重症者以外の感染者を転院させずに施設内で治療・介護に当たり、どのように収束させたのか。県の医療支援チームとして派遣された富山大学附属病院総合診療部教授・山城清二氏に聞いた（2020年6月6日にインタビュー。全計3回連載）。



富山大学附属病院総合診療部教授・山城清二氏

——4月25日に県の医療支援チームとして富山リハビリテーションホームに派遣されました。入る直前までの県内と施設の感染状況を振り返っていただけますでしょうか。

富山県では3月30日に富山市で県内第1号の感染者が確認されました。31日には県が「新型コロナウイルス感染症対策協議会」を立ち上げ、ワーキンググループを設置しました。その後も、次々と感染が増え、4月9日には感染症指定医療機関である県立中央病院の麻酔科医師と富山市民病院の看護師の感染が判明。4月13日には富山市民病院で院内感染によるクラスターが発生しました。県内でも感染者の大半を占めていた富山市で感染者数は増加し続けており、医療崩壊も懸念され、緊張感が高まっていました。

そのような状況下で、4月17日、富山リハビリテーションホームの入所者（80代女性）に感染が初めて確認されました。18日には、17日に救急搬送後に亡くなった入所者（90代女性）のPCR検査陽性も判明し、この方は県内初の感染死亡者となりました。

発覚のきっかけは、入所者が相次いで救急搬送されたことでした。4月9日に施設から富山赤十字病院に1人が運ばれ、当初は尿路感染症と診断されました。14日にも県立中央病院に普通の肺炎の診断で1人搬送されていました。2人とも症状からコロナ感染は疑われませんでした。しかし17日にも続けて県立中央病院に患者2人（上記の80代、90代女性）が搬送されてきたものだから、「これはひょっとしたら」とPCR検査をしたら陽性だったのです。

4月17日に県と富山市保健所に感染の報告が入り、対策がスタート。18日に県や富山市、富山市保健所が施設に介入。19日に県のクラスター対策班が立ち上がり、県内の救急医と感染症専門医を派遣して施設内の状況調査に入りました。20日に富山市保健所が、入所者65人と職員64人に対してPCR検査を始め、入所者22人の感染が判明し、クラスター発生と認定されました。このPCR検査は4日間かかり、24日までに59人（入所者41人、職員18人）の大規模クラスターが発生していることが分かり、激震が走りました。

——富山県では当時、重症化リスクの高い高齢者の感染者は原則、感染症指定医療機関に入院することになっていました。しかし、重症者以外の陽性者を施設内で治療されました。なぜでしょうか。

当時、県のクラスター対策班の担当者が、感染症指定医療機関を中心に41人の陽性入所者の受け入れ先を打診していたようですが、難航していました。富山市民病院でもクラスターが同時期に発生していて受け入れられない状況でした。加えて、施設の入居者の平均年齢は89.3歳で、寝たきりや認知症などで介護度の高い高齢者が多い。介助にも手がかかり、濃厚接触は避けられないです。「防護具など感染予防の準備ができていないと、いきなりは無理」「陽性者を一気にたくさん送ってもらっては困る」と、どの病院も院内感染を恐れて、受け入れに対して慎重になっていました。

本来は、受け入れ先の救急病院に陽性の入所者全員を振り分ければ終わりなのですが、逼迫した状況下では受け入れ先が見つからず、それができませんでした。また、通常ならば施設を指導して、法人グループの医師や看護師が対処しますが、当時は現場を正確に把握できる人は誰もおらず、コントロール不能。今回は行政の直接介入がないと対処できない状況でした。

そこで県の担当者は、重症者は救急病院に搬送し、それ以外はできる限り施設内に留めて診療・介護する方向で、施設に医療介入ができる医療支援チームを派遣することにしたようです。

——山城教授が県の医療支援チームとして派遣されることになったのはどのような経緯でしょうか。

私は感染症専門医ではありませんし、すぐに私に派遣要請が来たわけではないのです。県内の病院に対して、県は医療支援チームの応援を要請していました。しかし、多くが「このような状況も初めてで、なかなか対応は難しい」という答えだったようです。

県は同時に救急医や感染症専門医などからアドバイスを受けて対策を練っていました。富山大学附属病院にも依頼が来ていました。4月22日に救急部の医師から「富山市の施設でクラスターが発生し大変なことになっている。このままでは救急病院で医療崩壊が起こる」と、私に声がかかりました。そこで4月23日に、県の担当者（県対策本部医療グループリーダー・小倉憲一医師）と救急部の医師（若杉雅浩医師）と3人で施設を視察しました。翌日24日にも大学の感染症の医師（酒巻一平医師）と一緒に再度視察しました。

——視察したときの施設はどのような状況でしょうか。

施設は9階建てで個室は3つ。大半が2～4人の相部屋です。ベッドとベッドの間はカーテンで仕切られているだけでした。救急医や感染症専門医からアドバイスをもらいながら、患者を分ける簡単なゾーニング、療養室のベッドを離すというような指導がされていました。しかし、陽性者と陰性者が完全に分離されておらず、スムーズに進んでいないようでした。

県の担当の小倉医師から、▽施設内の状況や入所者の健康状態など全体を把握している職員が不在、▽職員18人が感染し、濃厚接触者は自宅待機していて、職員が不足している、▽コントロールする人がいない、▽施設が機能不全になっている——と説明を受けました。誰かが施設内に医療介入しなくてはならないが、見つからず困っているということでした。

——窮状を目の当たりにされたらと。

はい。その頃、報道を通して、富山市長や市の福祉保健部長、富山市保健所長が、施設の中の様子や入居者の状況について正確な情報が得られず、対応に苦慮している様子を目にしました。情報も県と市で、きちんと共有されていないような感じがあり、これは大変だと思いました。私は5年前から富山市と健康まちづくりを推進する「マイスター養成講座」を、富山リハビリテーションホームに隣接する「まちなか総合ケアセンター」で行っています。講座やまちづくりでお世話になった方々を手伝いたいという気持ちがありました。

中に入ったら自分も感染するかもしれない。そうなったら、多くの人に迷惑をかけます。しかし、誰も中に入る人がおらず、救急病院への受け入れも簡単ではないです。陽性の入所者が県内の病院に一斉に散らばって、そこで院内感染を起こしたら救急医療が崩壊するかもしれません。それは大学病院も例外ではない。懇意にしている県や富山市の担当者も困っており、施設に入って中の正しい状況、情報を各部署に伝え、橋渡しすることが求められていました。

そして何より、多くの高齢の入所者が苦しんでいる。視察の時に目にした、自分の親ぐらいの年齢の入所者の顔が何度もちらつきました。もし自分の親だったらどうするか——。やっぱりほっとけない。2日間悩んだ末に覚悟を決め、この支援に集中するために大学と病院の業務を調整し、一部を医局員に任せ、要請を受けました。

まずは5月9日までの2週間で勝負の期間として、連休明けまでにある程度落ち着けようと思いました。ちょうど連休は大学病院の仕事がないので、施設にずっと入りっぱなしになれます。逆に連休がなかったら、自分の仕事もあると、入りにくかったかもしれません。

4月25日に正式に県の医療支援チームとして施設に入りました。メンバーは私と、一緒に入ってくれと言ってくれた若い女性医師、県の応援呼びかけに「3日間なら手伝えます」と飛び込んでくれた看護師の3人でした。

### ――支援に当たっているときに、常に心がけていたことは何でしょうか。

自分に対しては、絶対に感染しないこと、体調管理をすること（睡眠、食事、飲酒を控える等）です。中途半端な気持ちで関わると、自分が感染してしまい、周りにも迷惑がかかると思い、絶対にかからないようにすると決めました。初めの1週間は本当に緊張して取り組んでいました。

スタッフにも、「あなたたちが倒れたら大変なことになる。そのためには感染しないよう自己管理ですよ」と伝えていました。そして、防護着の着脱を正確に教えました。とにかく基本に忠実に丁寧に感染症対策をやろうと確認していました。陽性者が減っても4週間ずっと防護着を着けて対応しました。応援の人たちも防護着です。自宅に帰らなくても済むように宿泊施設の保証もきちんとされ、危険手当も出ていたので、そこも安心できました。



富山リハビリテーションホーム（右）外観

### <富山リハビリテーションホーム概要>

医療法人社団・恵成会（理事長・升谷敏孝）が運営。介護老人保健施設、ケアハウス、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、デイサービス、デイケアなど9つの介護施設・事業所を持つ。医療面で榎谷内科、榎谷整形外科がサポート。介護老人保健施設「富山リハビリテーションホーム」（定員：入所79人、通所リハビリ20人）は9階建。個室3室、2人部屋2室、3人部屋1室、4人部屋15室。1階に榎谷整形外科（整形外科、リハビリ科、リウマチ科）を併設。

### <富山リハビリテーションホーム 収束までの流れ>

（太字は施設、※は県などの動き）

※3月30日	富山県で新型コロナウイルス感染者を初確認
※3月31日	県「新型コロナウイルス感染症対策協議会」ワーキンググループ設置。
※4月9日	県立中央病院の医師と富山市民病院の看護師が感染
※4月13日	富山市民病院でクラスター発生と認定
4月3日	入所者に初の発熱症状
～10日	入所者で発熱者相次ぐ。17日までに20人以上（高熱10人）が発熱症状
4月17日	80代女性入所者の感染を初確認。施設内でクラスター発覚
4月18日	県内初のコロナ感染による死亡者。入所者90代女性(17日死亡後、陽性確認)
※4月18日	県や市、富山市保健所が介入
※4月19日	県クラスター対策班立ち上げ。県と富山市で医療チームを編成。
4月20日	1回目のPCR検査を開始（～24日まで）対象者・入所者65人、職員64人 入所者の感染が計22人となり、クラスター発生と認定。
4月22日	富山赤十字病院にコロナ以外で入院した入所者の陽性が判明 （富山赤十字病院の濃厚接触者29人→いずれも陰性。新規入退院一時取りやめ）
～4月24日	1回目のPCR検査の結果出そろふ 陽性者・入所者41人、職員18人 計59人
4月23、24日	山城教授、施設を視察
4月25日	県の医療支援チームとして山城教授ら医師2人、看護師1人入る（25日時点で施設に残っていた入所者51人・陽性28人、陰性23人）
4月25、26日	重症者選別
※4月25日	軽症者、無症状者を対象とした宿泊療養施設（100室）をホテルに開設。
4月27、28日	入所者全員の家族に電話で状況説明
※4月27日	県と市が県介護老人保健施設協議会に介護職員の応援派遣を要請
4月28日 15:00	理事長・施設長の謝罪会見
4月29日	陽性者と陰性者の完全な区分け完了
※4月29日	関連施設「デイサービスめぐみ」利用者6人の感染を確認、クラスター発生
5月2～8日	県介護老人保健施設協議会派遣の介護士・看護師（6人）応援入る
5月7日	2回目のPCR検査（陽性者5人へ）
5月11日	3回目のPCR検査（陽性者3人へ）
5月14日	4回目のPCR検査（陽性者3人）
5月18日	5回目のPCR検査（陽性者4人） （陰性者の中から突然の発熱で死亡者がでて、陽性と判明。 そこで初回陰性者18人に対して2回目のPCR検査を施行。全員陰性）
5月17日～21日	陽性者4人を順次、富山大学附属病院へ転院
5月22日	陽性者なし、陰性者33人
5月23日	施設内消毒完了。報道機関に施設内を公開
5月27日	恵成会が「事業改善実施計画」を富山市に提出、受理される。
※5月28日	富山大学附属病院が第2種感染症指定医療機関に指定
5月28日	厚生省クラスター対策班、県、市と富山市保健所にて検証会

#### ◆山城 清二（やましろ・せいじ）氏

1984年佐賀医科大学卒業。沖縄県立中部病院にて初期・後期研修。沖縄県八重山病院、沖縄県立中部病院救命救急センターを経て、1993年佐賀医科大学総合診療部助手。1995年トロント総合病院総合内科、1997年ハーバード大学大学院（公衆衛生）へ留学。1998年佐賀医科大学講師。2004年富山医科薬科大学附属病院(現・富山大学)総合診療部教授。現在に至る。日本プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医、日本内科学会総合内科専門医、南砺市政策参与。

【取材・文・撮影＝藤重 歩】

# 新型コロナウイルス 特設ページ

COVID-19

最新コロナ情報を確認



本記事をお読みになって、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する以下の設問にお答えください。

進呈ポイント 0ポイント

#### 開示範囲等

本アンケートの結果は、個人情報保護方針および関係法規に準拠し、以下に活用する可能性があります。

- 個人が特定できない形で集計した結果の医療従事者への公開
- アンケート集計結果および/または回答内容と先生のご氏名・ご所属等情報のデータ活用企業への提供
- データ活用企業における販売情報提供活動

**Q1 この記事は、新型コロナウイルス対策において、どれぐらい役に立ちましたか？（非常に役に立つ=10）**

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**Q2 現時点の新型コロナウイルスに対する、ご自身の警戒レベルはどれぐらいですか？（警戒していない状態=0）**

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

上記個人情報の取り扱いに同意して送信

シリーズ [新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連情報](#) »